

問 6 ――⑤「この二つの意見」とはどのような意見のことですか。本文中のことばを使ってそれぞれ二十〜三十字で答えなさい。

問 7 本文中には次の一文が省略されています。本文中のどこに入るのが適切ですか。その直後の六字を答えなさい。

・ 傷がつくのを恐れること。

問 8 次の1〜4の文の内容が、本文と合っている場合には○、合っていない場合には×をそれぞれ答えなさい。

- 1 「使い捨て」の時代がやって来て初めて、若者たちは自分も他人も弱い存在だと気づいた。
- 2 優しさということばはもともと、お互いを傷つけないことを考えたものであった。
- 3 カラダだけでなくココロが傷つくことに敏感になるにつれて予防としてのやさしさが良いとされた。
- 4 具体的で、気持ちを伝えられるやさしさが、最も新しく良いものである。

1	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>

② 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

浜辺の村に住む洋次たちと、毎年夏の間東京からやってくる、洋次と同じ年のいところで小学4年のとしちゃんが、砂浜で遊んだ後、地元の大浦へ帰ろうとしていたが、としちゃんだけが渡船に乗り遅れてしまった。

渡船に乗っているみんなも「としちゃん」「としちゃん」と叫んだ。しかし、運転しているおじさんにはエンジンの音で聞こえないらしい。相変わらず後ろの方を向きバックしつづけている。あれよあれよという間に栈橋が遠くになってしまった。としちゃんは、渡船を見つめたままずっと栈橋の先で小さく立っていた。

どうしよう、おじさんに戻ってもらおうように頼もうか、それともとしちゃんだって、ここにもう長く居るんだから次の渡船に乗って戻ってくるぐらいはできるだろう、誰もがそんな風に考え出した、その時である。

としちゃんは何を思ったか、急に **A** 背を向けた。そして栈橋にいる他の海水浴客をかき分け、海岸沿いの道に戻り、走り出した。①洋次たちはあつけにとられた。

思いもつかない行動だった。としちゃんは、いつも渡船を降りる

大浦をめざして走り出したのだ。その村は海岸沿いに細い道がずっと廻っていた。おそらく、地元の子でないとしちゃんが自分の足で通るのは初めての道だろう。渡船のみんなは遠くのとしちゃんの姿を追った。

としちゃんは、はやくも御浜の入り口にある富士見館の横を通り過ぎ、そこから続く **B** 曲がった岸壁の細い道を走っていた。*すいがんが揺れているのがよく見えた。その辺は山が海までぎりぎりせり出していて、細道の山側に **C** くつつくように民家があった。

としちゃんは、その民家の前を **D** 走り過ぎ、すこし道がひろくなくなっての大門と呼ばれる所まで来た。ここは隣の村に行く山道と合流する所である。

渡船の上の少年たちは②誰も声を立てず、としちゃんの姿をじっと目で追っていた。

もうすぐ、この村で一番大きい網元の浜徳の網干場にさしかかる。海岸縁に広がる網干場に入ると、細長い網の収納庫がしばらく続き、海からの視線をふさぐことになる。

渡船はもう湾の中央まで来ていた。としちゃんの姿は米つぶのように小さくなっていった。小さくなつたまま、網干場のある所に来て、収納庫の後ろに姿はまったく消えてしまった。渡船の上の少年たちは息をのみ、網干場をじっと見ていた。そして潮風の音だけがしばらく続いたあと、いつせいに歓声が挙がった。

収納庫と収納庫の間に、としちゃんの走る姿が一瞬あらわれたからだ。一瞬ではあったが洋次たちの目は確かにその姿を捉えた。ゴム草履までちゃんと見えた。その先にはまだ収納庫が続く。走っているとしちゃんを想像して、収納庫の壁を目でなぞると、約束したように次の隙間にとしちゃんがあらわれ、また歓声が挙がった。網干場を過ぎると、そこからはずっと民家が並んで続き、やはりとしちゃんの姿を隠した。ほとんどが漁師の家で、海側には船がないであった。

しかし、家と家の間には大小の隙間が時折あり、目の追う先々に、としちゃんの走る姿をチラッと短く、時には少し長く見せてくれた。そして、そのたびに甲板の上では歓声が挙がるのだった。

③ 渡船の上の少年たちは思った。どうか、としちゃんが、大浦の栈橋に渡船が着くのに間に合ってほしいと。渡船は、湾を大きく廻って、村の中央の入浜栈橋を出た所だった。次はもう大浦だ。

としちゃんは、民家の密集している所に入り、姿がまったく見えなくなっていた。いったいどの辺を走っているんだろう。もしかして疲れて歩いているかもな、と誰かが言いかけたとき、大浦の入り口にとしちゃんの姿が急にあらわれた。いままでより一段と大きい **E**。

としちゃんは走りつづけていた。そこからはひとつ大きいカーブがあるが、船着き場まではもうすぐである。さすがに疲れ果てたのか足取りは重そうだ。それにひきかえ、渡船は④たんたんと船着き場に近づいていく。でも、としちゃんだって負けてはいない。最後の力をふりしぼって走ってくる。漁業組合の製氷のベルトコンベアをくぐり、夏の間だけ出る釣り道具屋も通り過ぎた。もう、あとひといきだ。

しかし、みんなが甲板にいるのを見つけると、としちゃんは急に栈橋の直前で走るのを止めてしまった。

まもなくして、洋次たちは渡船の先についているゴムタイヤが、コンクリートの岸壁にぶつかる独特の柔らかい衝撃を感じた。5人は次々と渡船から飛び下りた。そして、製氷の建物の方に向かって立った。としちゃんは、肩ではああと大きく息をしながら近づいてきた。

間近で見るとしちゃんは、⑤自分たちの知っているとしちゃんではないように思えた。

⑥興奮していたのに、誰も何も話しだせなかった。

しかし、一番小さな長生が「としちゃん、すごいや、とせんに勝つんだもん」と叫んだ途端、いつせいに、いままで中継放送のように見てきたことをみんなが口々にしゃべりだした。

(佐藤雅彦 『砂浜』)

*すいがん：水中メガネ

問1 — A D に入る最も適切なことばを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 次々と イくねくねと ウびったりと エくるりと

A B C D

問2 — E に入ることばを「くがくでく」という表現を使って十二字で答えなさい。

Grid for question 2

問3 — ①「洋次たちはあつけにとられた」とありますが、それはなぜですか。本文中のことばを使って二十五～三十五字で答えなさい。

Grid for question 3

問4 — ②「誰も声を立てず」とありますが、このときと同じような少年たちの気持ちを表している慣用句を本文中から探し、五字以内で抜き出しなさい。

Grid for question 4

問5 — ③「渡船の上の少年たちは思った。どうか、としちゃんが、大浦の棧橋に渡船が着くのに間に合ってほしいと。」の部分で使われている表現技法を漢字で答えなさい。

Grid for question 5

問6 — ④「たんたん」とありますが、このことばから渡船のどのような様子を読み取ることができますか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア としちゃんを上げまそうとスピードを上げている様子。
イ としちゃんを心配してスピードを落とした様子。
ウ としちゃんの疲れも気にしない様子。
エ としちゃんが嫌がることをわざとする様子。

Grid for question 6

問7 — ⑤「自分たちの知っているとしちゃんではないように思えた。」とありますが、ここでとしちゃんの印象がどのようにに変化したのですか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人並みな印象から、悲劇の主人公に。
イ 頼りない印象から、力を発揮するヒーローに。
ウ かしこい印象から、おっちょこちょいな人物に。
エ やさしい印象から、おっかない人物に。

Grid for question 7

問8 — ⑥「興奮していたのに、誰も何も話しだせなかった。」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア としちゃんの活躍に感動したから。
イ としちゃんを置いてきぼりしたことを悪いと思ったから。
ウ としちゃんから話し出すのを待とうと思っていたから。
エ としちゃんの行動にあきれていたから。

Grid for question 8

問9 この文章についての説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 力をふりしぼって走るとしちゃんを喜んで見ている船上の少年たちの様子が、陽気に描かれている。
イ 渡船と競い合って走っているとしちゃんのがんばる様子が、明るくユーモラスに描かれている。
ウ 渡船に間に合うよう一所懸命に走るとしちゃんの心の動きが、細やかに描かれている。
エ 思いもつかない行動をとったとしちゃんの様子とそれを応援する少年たちの様子が、交互に描かれている。

Grid for question 9

①～④の に入る接続語をア～オから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 今日によく晴れている。 、風も気持ちいい。
② 必死に走った。 、電車に乗り遅れた。
③ 今は食べたくない。 、さっきおやつを食べたからだ。
④ ニュースをお伝えしました。 、次に天気予報をお伝えします。

ア なぜなら イ しかし ウ さて エ だから オ また

① ② ③ ④

①～③の — と同じ用法のものをア～ウから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 山の上は、夏でも雪が残る。
ア 3メートル跳んでも勝てない。
イ 彼はスポーツ選手でもある。
ウ 子供でも理解できる。

Grid for question 10

- ② 体が浮くように感じた。
ア 春のような暖かい日差し。
イ 彼のような人が好きだ。
ウ 今日、雨になるようだ。

Grid for question 11

- ③ 自分は幸福だと思う。
ア 雨がやんだから帰る。
イ 帰るのは夜十時だ。
ウ 春の海はおだやかだ。

Grid for question 12